

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
E301	インターンシップ	3年	実習	1	就職委員会
授業概要 インターンシップとは、学生が在学中に企業はじめ官公庁など実際の職場で、本学のシティライフ学の専攻並びに将来のキャリアに関連した就業体験を積むことである。アルバイトとは違い、社員等と同じ責任の下働くなかで、企業・仕事・働くことの意義を理解する。社会に眼を向け、社会人としてのモラルをしっかり学び、将来の職業選択の眼を養う。					
到達目標(学習の成果) 事業所での仕事を体験することで、社会人としての自覚を強く持てるようにすると共に、企業等の活動やそこで働くことの具体的な意義をつかめるようにしてもらいたい。また、大学の専攻であるシティライフ学が社会とどう関わり、役に立っているのかを理解して、大学でも勉強の目的を明確にすること、そして仕事に対する自身の適性や興味を考えるきっかけとして、卒業までの間に何をしておくべきかが明確になるようにする。(DP4)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	仕事とは、企業とは何か。	働くことの意義、企業の社会的役割等、インターンシップ前の事前学習、心構えについて勉強する。			
2	インターンシップ	各事業所にて、実地での就業体験をする。			
3	インターンシップ	各事業所にて、実地での就業体験をする。			
4	インターンシップ	各事業所にて、実地での就業体験をする。			
5	インターンシップ	各事業所にて、実地での就業体験をする。			
6	インターンシップ	各事業所にて、実地での就業体験をする。			
7	インターンシップ	各事業所にて、実地での就業体験をする。			
8	事後指導	インターンシップの経験を踏まえて、どのように社会・企業を見る目が変わったか、話してもらいます。			

準備学修(授業外の自己学修)

事前の教員等による指導ばかりでなく、各自がインターンシップ先の事業所についての理解を深めるために、十分に準備をしておくこと。

成績評価の方法・基準(%表記)

インターンシップ先の事業所からの報告書、(30%)学生からの報告書類(30%)・インターンシップのための準備学習(40%)等を総合的に勘案して評価する。

観点	S	A	B	C
社会人としての自覚・職業意識の醸成	非常に意識が高くなった。	かなり高くなった	ある程度高くなった。	社会人としての意識が持てるようになった
仕事に対する自身の適性について	明確になった。	かなり明確になった。	ある程度明確になった。	明確になるきっかけになった。

教科書

特にない。

参考書等

業界研究等についての各種書籍。

履修上の注意・学修支援

当然のことであるが、インターンシップ期間の欠席は厳に慎むべきであるし、学生の行動を通じて本学が評価されている自覚を忘れないでほしい。また、何よりも大人としての強い自覚を持って積極的に職務に精励することが大切である。